

# 世界各地ニ於ケル近年ノ大地

## 震ニ就キテ

委員 理學博士 大森房吉

過去七八年以來世界各地ニ非常ノ大地震ヲ發シタルコト頗ル頻繁ナリキ、左ニ記スルハ地球上最モ活動ノ盛ナル二大地震帶ニ關スル小引ナリ

桑港地震ト南米地震(米大陸西岸地震帶ノ活動)

數年來地球上處々ニ大地震起リタルガ、最モ顯著ナル事實ハ(一)亞米利加洲ノ西岸ト、(二)臺灣、印度北部ヨリ地中海ニ亘ル二大地震帶ニ沿フテ激震ヲ續發シタルニアリ先ヅ亞米利加洲ノ地震ニ就キテ略說セントス

去ル明治三十九年四月十八日ノ米國桑港大地震ヨリ以前七ヶ年、即チ明治三十九年二月一日迄ノ間ニ亞米利加ノ西岸ニ左ノ如ク七回ノ大地震アリキ

(ア)明治三十二年九月四日、及ビ十一日「同三十三年十月九日ノ三回地震

(イ)明治三十三年一月二十日、同三十五年四月十九日及ビ九月二十三日ノ三回地震

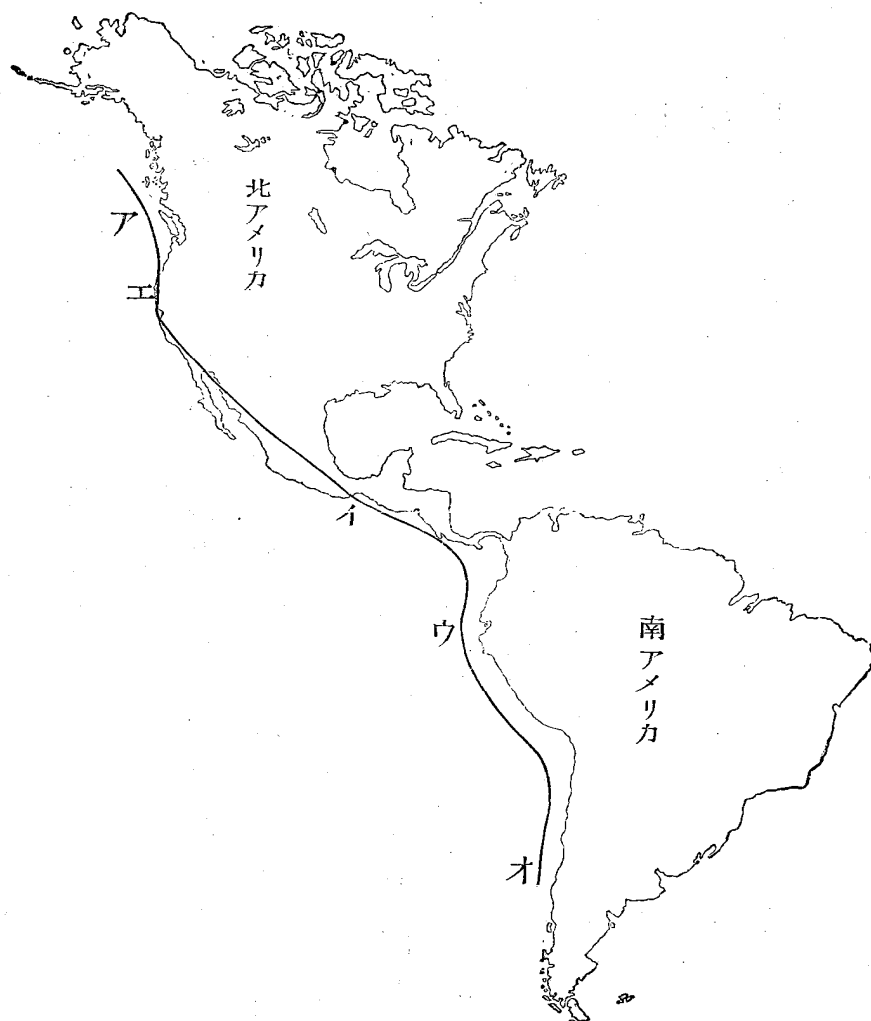
(ウ)明治三十九年二月一日ノ地震

右七回ノ大地震中、(ア)ノ二回ハ「アラスカ」ノ西南海中ヨリ發シ始メノ二回ハ大ナル津浪ヲ伴ヒタリ、(イ)ノ三回ハ「メキシコ」國ト中央亞米利加「グアテマラ」國ヲ強ク震動シ、(ウ)ノ一回ハ中央亞米利加ノ「パナマ」、及ビ南亞米利加ノ西北隅ナル「コロンビヤ」及ビ「エクワドル」兩國ニ少ナカラザル震害ヲ生ジ且ツ津浪ヲ伴ヒタリ、第一圖ニ以上諸地震ノ震原地ヲ略示ス、(ア)ノ震原ハ北方ニシテ、(イ)ト(ウ)ノ震原ハ少シク離レテ南方ニアリ、後ノ二者ハ互ニ連續ス

元來亞米利加洲ノ太平洋岸ハ地球上、最モ盛ナル地震帶ノ一ニシテ、前記七回ノ地震ハ互ニ無關係ナル現象ニ非ズシテ皆ナ南北亞米利加兩大陸ノ太平洋岸ニ於ケル造山力ノ結果ナラザルベカラズシテ同一地震帶ノ別々ナル個所即チ北端ト中央部トニ起リタルナリ故ニ其ノ中間タル合衆國ノ西岸、特ニ地震多キ加州ノ如キモ早晚大震ニ襲ハルベキハ想像シ得ベキコトニシテ曾テ余ハ其ノ中桑港ノ震災ヲ調査スルノ機會モアルベシト語リタルコトモ有リシガ、明治三十九年四月十八日ニ至リテ遂ニ桑港ノ大地震ヲ發シタリ、其ノ震原ハ加州中央部ノ西岸ヨリ北方ハ海中ニ入り全體ニテハ約三百哩ノ長サニ亘リ圖中(エ)ト記スル所ニアリ

此ニテ北ノ方「アラスカ」ヨリ南米「エクワドール」ニ至ル迄  
テ連續シテ大地震ヲ發シタレバ、同地方ノ地震ノ大活動ハ先  
ヅ當分終レリト考ヘラルベシ

第一圖 亞米利加ノ太平洋岸ノ地震帶



大地震ガ同一個所ニ續發スルコト無ケレバ桑港ノ如キハ今後  
二三十年間ハ激震ニ襲ハル、コト無カルベク、縦令後ニ至リ  
テ再ビ激震ニ遭遇スルトモ其ノ震動ノ強サハ極メテ激烈ナル  
コト無カルベキヲ以テ少シク建築上ニ注  
意ヲ與フレバ容易ニ震害ヲ避クルヲ得  
ベケレバ、安心スベキ旨ヲ語リタリ、且  
ツ亞米利加洲ノ太平洋岸ニ近キ將來ニ大  
地震起ルトセバ前記地震帶ノ北若クハ南  
ノ延長ナルベキガ、南亞米利加ノ西岸ハ  
大地震多キ場所ナレバ、今後ノ震災ハ赤  
道ノ南方（秘露、及ビ智利兩國ノ意義ナ  
リ）ニアルベシト想像サルベク、此等ノ  
事ハ桑港ノ横字新聞ニ記載セルコト有リ  
キ、而ルニ余ハ明治三十九年八月四日汽  
船ニテ桑港ヲ出發シテ歸朝ノ途ニ就キ、  
同月二十二日、横濱ニ着シテ始メテ智利  
國大地震ノ報道ニ接シ、余ノ想像ノ誤ラ  
ザリシヲ見タリ、此ノ南米地震ノ震原ハ

四月十八日ノ震災後ハ米人ガ地震ノ再發ヲ氣遣ヒ恐怖スルコ  
ト甚シキヲ以テ、余ハ加州出張中、上ノ如キ理由ヲ説明シ、

概略圖中（オ）ト記スル所ナルベシ  
要スルニ亞米利加大陸ノ西岸ノ地殼ハ北端ヨリ南端ニ亘リテ

凡テ迫壓ヲ受ケツツアリテ、「ロツキー」及ビ「アンデス」ノ兩大山脈ガ活動ノ結果トシテ此ク大地震ヲ起コセルナルベク、此ニテ米大陸西岸ノ大地震ノ發起ハ一時終リトナルナランカ

### 歐亞地震帶ノ活動

明治三十九年四月七日ヨリ以太利國「ベスビユース」山ハ噴火ヲ始メ其ノ甚シキコトハ彼ノ有名ナル紀元七十九年ニ於ケル初回ノ破裂以後ニテハ最モ激烈ナリト唱フル程ニシテ、殆ド一週間繼續シ十三日ニ至リテ終熄セリ、其ノ翌日臺灣ニ激震一回アリ、又々僅ニ四日ヲ距テテ桑港ノ大地震ヲ發シタレバ世人ハ「ヴェスビユース」火山ト米國地震等ト何等カノ關係アルベキヲ疑ヒタリ、今マ兩者間ニ直接ノ關係ハ無カルベキモ近年來歐亞地震帶ノ各部ヨリ大震ヲ發セルハ事實ナリ、左ニ列記スルガ如シ

明治三十年六月十二日印度「アツサム」及ビ「ベンガル」

同 三十二年九月二十日小亞細亞「スミルナ」近傍

同 三十五年二月十三日露國高加索「シエマハ」

同 三十五年八月二十二日露國土耳其斯坦「カシニガル」地方

同 三十七年四月四日「マケドニヤ」及ビ「バルカン」半島

同 三十七年四月二十四日及ビ十一月六日臺灣嘉義地方

明治三十八年四月四日印度西北部「カングラ」地方

同 三十八年九月八日以太利南部「カラブリヤ」地方

同 三十九年三月十七日及ビ四月十四日臺灣嘉義地方

此ノ如ク臺灣、「ヒマラヤ」山脈ノ外側、土耳其斯坦、高加索、小亞細亞、「マケドニヤ」、以太利ニ亘リテ大地震ヲ續發シタルハ（第二圖參照）各地震ガ單獨ノ現象ニ非ズシテ、同一地震帶全般ニ沿ヒテ存セル原因ノ結果ナルベシ、左スレバ「ヴェスビユース」火山大破裂モ諸地震ト必ズシテ無關係ナルニモ非ルベシ、且ツ前ニ列記セル諸地震ハ亞米利加西岸ノ大地震ト相前後シテ發起セルガ、歐亞地震帶ト亞米利加西岸ノ地震帶ノ活動モ殆ド同時期ナリシモノト認メラルベク、必竟地震全體ガ迫壓ノ限度ニ達シタルガ爲ニ大ナル地震帶ノ諸部分ニ變動ヲ生ゼルモノナルベシ

第二圖（甲乙）ナル線ハ近年歐亞ニ亘リ大地震ヲ續發シタル地帶ヲ示ス本邦ノ（甲）ナル線ハ臺灣ヨリ更ニ呂宋島ニ連ナルモノナルベク、必ズシテ歐羅巴及ビ印度ニ亘ル（乙）線トハ連結セザルベキモ、姑ク點線ニテ接續シテ示セリ、又支那國ニテハ甘肅、陝西、山西、雲南、四川等ノ諸省ニテ曾テ往々大地震ヲ發セルコトアリ、近年ハ靜ナレドモ元來地震區域ナレバ（イ）及ビ（ロ）ハ小圈ヲ附シテ之ヲ示ス、西伯利南方、「バイカ

ル「湖附近ニモ時々強震ヲ發スルコトアリ、依リテ（ハ）ト記ルシテ之ヲ示ス、要スルニ西伯利ノ南境ヨリ支那本部ノ東北部ニ亘ル一地带ガ亞細亞大陸ノ地震區域ノ北界ヲナスモノナルベシ

本邦ハ如何

前述ノ如ク一方ハ米大陸西岸全體ニ亘リ、又々他方ハ地中海北岸ヨリ印度臺灣ニ及ビテ悉ク大地震ヲ發シタルガ、我日本ニモ近キ將來ニ寶永四年、安政元年十一月四日、五日ノ東海道、南海道地震等ノ如キ大震災有ルベキヤ否ヤトノ疑問ニ對シテハ何人モ明確ニ答フルコト能ハザルベキモ、目下直チニ大震災ガ襲來スベシト想像スル理由ハ無キニ似タリ、左ニ述ブルガ如シ

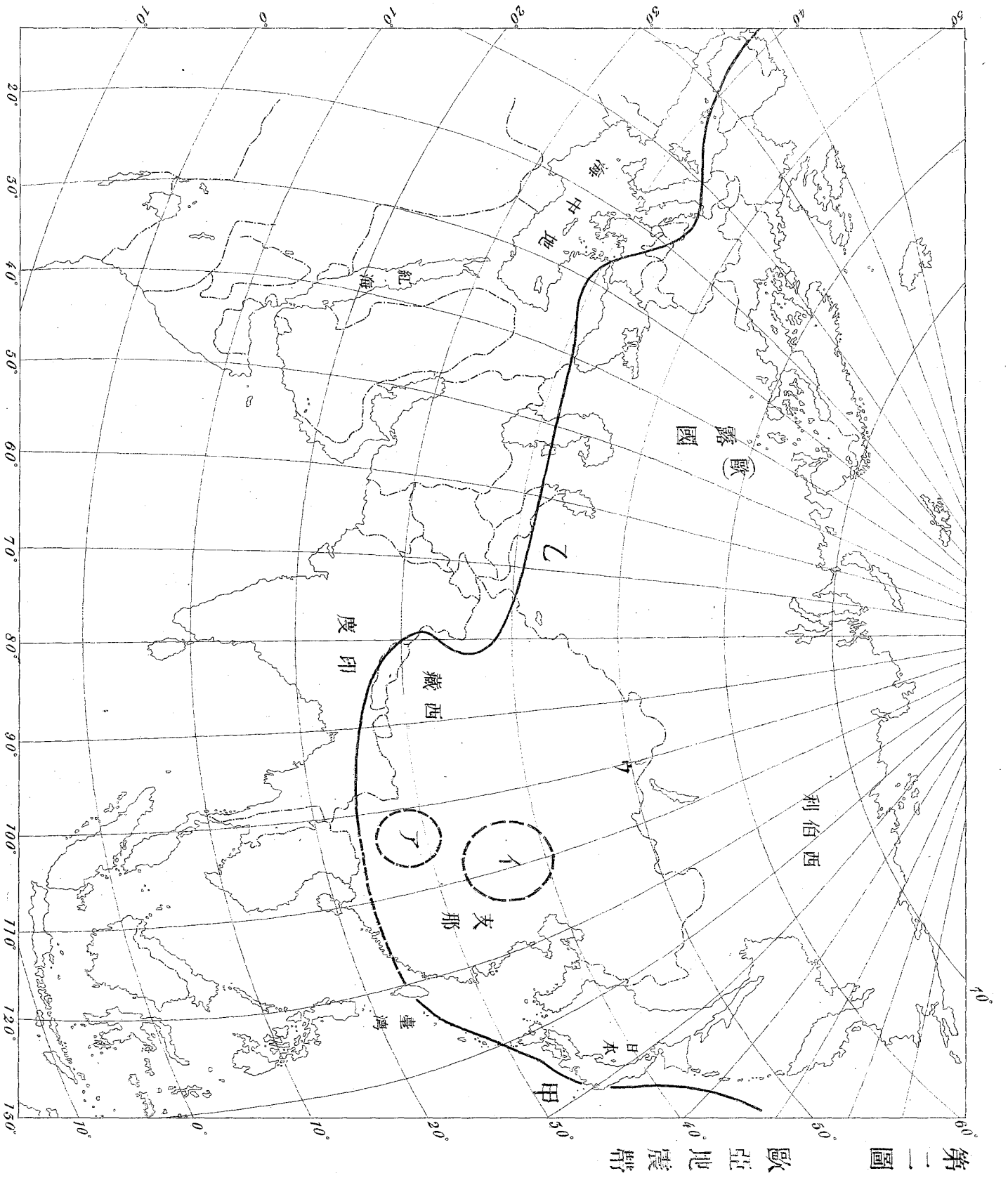
（甲）我が日本諸島ハ北ノ方、千島ヲ經テ、北米「アラスカ」ニ接近シ、南ノ方ハ大島、沖繩諸島ヲ經テ、臺灣ヨリ支那、印度等ニ近ク、恰モ亞米利加西岸ノ地震帶ト歐亞地震帶ヲ連結スルモノニシテ、此等ト同様ニ地震活動力ノ盛ナルハ勿論ナレドモ、安政年間ニハ我が邦ニ大地震頻繁ナリシニ關セズ印

反セリ

（乙）安政年間ハ我邦ノ地震夥シク、最大ナルハ安政元年十一月四日及ビ五日ニ、東海道、南海道ノ海底ヨリ發セルモノナルガ當時本州東北部ナル三陸海中ヨリ大震ヲ生ゼザリキ、然ルニ明治二十七年ノ根室、釧路、地震以後ハ東北海中ヨリ屢々激震ヲ發シタルヲ以テ考フルニ近年ハ東海道、南海道ノ海底ハ靜謐トナリ、其ノ代リニ東北海底ノ地震活動ハ盛トナリシモノト思ハル

以上（甲）、（乙）ヲ綜合シテ、想像スルニ本邦、就中最大地震ノ發起地タル東海道、南海道ノ海底ハ次期即チ數十年ヲ經タル後、地震活動力ガ再ビ盛ナル時ニ至リテ大震ヲ頻繁ニ發スルヤモ知レザレドモ、目下ノ地震時期ニハ寧ロ平穩ナル状態ヲ保持スルナランカ





第二圖 歐亞地震帶